

1. 学校経営・運営ビジョンに関するアンケート集計結果及び自己評価（教職員）

令和6年1月

- 回収率： 100%
- アンケート及び自己評価の評価段階
 - ①：そう思う
 - ②：少しそう思う
 - ③：あまりそう思わない
 - ④：全くそう思わない
 - ⑤：分からない
- 下表の数値はアンケート回答における①と②、③と④の和及び⑤を割合（%）で示した。
 「全体」は教職員全員の回答を元に割合を算出し、「各部・学年・教科内」はその担当者ごとの回答を元に割合を算出した。
- 「自己評価」は、『育てたい生徒像』『喜多方高校の取り組み』『重点目標』については学校評価委員が行い、他は関連する各分掌が行った。

番号	項目	全体			各部・学年・教科内			中間時の①+②	自己評価
		①+②	③+④	⑤	①+②	③+④	⑤		
育てたい生徒像	1 積極的な「学び」の精神を養い、自ら課題を発見し、解決に向けて粘り強く取り組もうとする生徒を育てている。	83.7	16.3	0.0	「中間時の①+②」は全職員の回答を元に算出	89.8	②		
	2 高い志と使命感を持ち、自己実現に向けて努力する生徒を育てている。	85.7	14.2	0.0				86.0	②
	3 多様な価値観を理解・尊重し、立場が異なる他者とともにコミュニケーションを取りながら協働できる生徒を育てている。	89.8	10.2	0.0				90.0	②
	4 地域社会の一員であるとして自覚を持ち、よりよい社会を形成しようとする生徒を育てている。	85.7	14.2	0.0				86.0	②
	5 心身の調和の取れた生徒を育てている。	89.7	10.2	0.0				84.0	②
ICTの活用による生徒主体の授業を展開する中で、自ら問題意識を持ち、主体的に問題を解決しようとする態度の育成をある程度達成できた。また生徒同士の学び合いの時間を取り入れるよう努めることができた。各種行事・生徒会活動・部活動などを通じ、多様な人間関係の中で協働する機会を多く設けることができた。									
喜多方高校の取組	6 「進学指導重点校」として、わかりやすくレベルが高い授業ときめ細かな進学指導を行っている。	77.5	18.3	4.1	「中間時の①+②」は全職員の回答を元に算出	88.0	②		
	7 アクティブラーニングの手法やICTを取り入れた授業改善を進め、「主体的・対話的で深い学び」を実現している。	87.8	10.2	2.0				88.0	②
	8 英語教育に力を入れるとともに、学校設定科目「国際交流」、海外ホームステイ研修等により、国際感覚に優れた生徒を育成している。	85.7	14.2	0.0				78.0	②
	9 総合的な探究の時間「きたかたグローバルリサーチ」におけるSDGsの視点に立った地域課題探究学習により、生徒の主体性、創造性、協働性を育成している。	73.4	22.4	4.1				76.0	②
	10 商業等の資格取得及び就職指導に力を入れ、卒業後に地域での即戦力となる生徒を育成している。	89.8	8.2	2.0				86.0	②
	11 体育、芸術、家庭等の専門科目を設け、体育系、芸術系、保育系の上級学校への進学を目指す。アスリート系人材育成、アーティスト系人材育成、保育系人材の育成に力を入れている。	63.3	30.6	6.1				58.0	③
	12 医療従事者を志す生徒に対する県教委指定の教育プログラム「医療・保健コース」により、将来、地元で活躍する医療人材の育成に努めている。	53.1	34.7	12.2				44.0	③
6. 進路目標に応じたコース別クラス編成とともに、国語・数学・英語の授業においては習熟度別の授業を行うなど、可能な限り個々の生徒に応じた授業を展開するようにしている。7. 「主体的・対話的で深い学び」や「個別・最適化した学び」をアクティブラーニングに基づく授業研究やICT機器の活用により、今年度はさらに進めることができた。8. 語学研修としての海外研修を行うことができた。9. 教員の校内研修会を行い、また生徒に対しては多種多様な講座を設け、外部の講師を招くなどして、充実に努めている。10. 資格取得に向けた講座を設け、成果をあげることができた。11. 体育の専門科目をより充実させるため、教育課程を検討している。12. 1年生を対象にした講演会、福島県立医科大学体験セミナー・メディカルセミナーへの参加、一日看護体験事業、大学の教員を招いての進路別講座などを通して医療・保健系の大学等への進学意識を高め、医療従事者としての人間性を醸成する一助とすることができた。									
重点目標	13 生徒の健やかな心身の育成のため、基本的な生活習慣を確立させ、規範意識・健康意識を向上させ、他者を尊重する思いやりの心の育成を行っている。	83.6	16.3	0.0	「中間時の①+②」は全職員の回答を元に算出	92.0	②		
	14 確かな学力を育成するために、学習意欲を喚起し、学習習慣を確立させ、また指導力の向上を行っている。	85.7	12.2	2.0				92.0	②
	15 進路希望を実現させるために、体系的な進路指導を行い、進路目標の早期決定を促し、また進路情報の提供を行っている。	91.8	8.2	0.0				92.0	①
	16 信頼される学校づくりに向け、不祥事根絶、保護者・地域との連携及び情報発信を行い、また学校環境の整備を行っている。	83.7	16.3	0.0				88.0	②
規範意識の向上については、教員と生徒の良好なコミュニケーションが保たれており、概ね達成することができた。各種進路行事を計画的・効果的に実施し、また大学や各種事業所等と連携した行事を行うことより進路意識の高揚と職業観の育成に努めた。また進路ガイダンスや「進路だより」「進路資料」等の配付により、適切な進路情報を提供した。さらに、部・学年においては定期的に広報を発行し、教育活動の具体的な情報についても発信を行っている。「不祥事根絶に向けた服務・倫理に関する研修会」においては、話しやすい雰囲気の中、他の教員の考えなど聞くことで、不祥事の防止について具体的に考える機会を持ち、また当事者としての意識を高めることにもつながり、有意義であった。耐用年数を迎えた空調設備や放送機器の整備などが行われている。									